

IEA石油市場レポートの概要（2015年11月13日公表）

（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 原油価格は、継続する世界市場の供給過剰と、強い米ドルがブラジルにおけるストライキと地政学的緊張状態の影響を限定的にものにした結果、10月中は狭い価格帯に固定。レポート記述時点での原油価格は約\$44.43/bbl（ブレント）、約\$41.75/bbl（WTI）。
2. 2016年における世界の石油需要の伸びは、2015年に5年間で最も高い180万b/dに急増した後、120万b/dに緩まる見通し。急激な低価格化、1年前よりも寒い冬の天候、いくつかの国での景気後退後の反発といった最近の支えが失われていくことが見込まれるため、（需要の）勢いは長期トレンドに向かって弱まる。
3. 10月の世界の石油供給は、OPEC非加盟国の生産量がその前月の低いレベルから回復したことにより9700万b/dを超えた。ロシアのような生産国の回復力に関わらず、OPEC非加盟国の供給は、来年60万b/d以上縮小することが見込まれる。OPEC非加盟国の伸びを牽引した米国のライトタイトオイルは、2016年に60万b/d減少すると見込まれる。
4. OPEC加盟国の10月の原油供給は、3176万b/dと安定。これは、イラクとクエートの供給減をリビア、サウジ、ナイジェリアの供給増がオフセットしたため。ファンダメンタルズのわずかな引き締めは、2016年におけるOPECへの需要を先月の本レポート見込みより20万b/d引き上げ、3130万b/dと見込む。
5. OECD諸国の石油在庫は、季節変動の動きとは逆に1380万バレル増加し、9月末には記録的な30億バレル近くとなった。世界的な在庫積み増しのペースは2015年第2四半期の230万b/dから2015年第3四半期には160万b/dへと緩やかになったが、引き続き過去の平均を上回る状態が続いている。
6. 世界の精製稼働は、季節的な定期補修が本格化する中、10月に120万b/d低下し、7820万b/dとなった。その結果、年間処理量増加の顕著な削減につながる見込み。利益率は9月に比べて10月は徐々に低下しているが、高い製品在庫レベルにかかわらず堅固である。